

図画工作科学習指導案

廿日市市立宮内小学校

指導者 T1 新谷 典子

T2 針本 緑

1 日時・場所 平成21年6月23日（火）、30日（火）第3・4校時 教室

2 学年・学級 第3学年1組（38名）、自閉症・情緒障害特別支援学級（1名）

3 題材名 光と色のファンタジー

4 題材について

○ 題材観

本題材は学習指導要領第3学年及び第4学年の「A表現」

（2）感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。

イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。

ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。

を受けて設定した。

この題材は、友だちとのかかわりの中で、感じたことや想像したことを絵や立体や工作に表す活動を通して、友だちの発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫していく題材である。また、作品にかかわっては、造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養う活動である。色セロハンを使った光がトレーシングペーパーによって柔らかく美しい感じになることを知り、光と影の美しさを生かした飾りをつくる内容である。

○ 児童観

本学級の児童は、造形活動を好むが、表したいことや用途を考えて材料を生かして計画的に表現するまでにいたっていない。材料や用具の特徴を生かすというよりは、まだその場の思い付きで、自分のつくりたい作品の完成イメージをもたないまま活動しているように見受けられる。

対象児童は、完成させるもののイメージがもちにくいことから図画工作科に苦手意識をもっていた。しかし、見通しをもって活動できれば自分の思いをもって活動でき、表現することに楽しさを感じはじめている。「○○な感じでつくりたい。」という発想も、もてるようになってきている。しかし、見通しのもてない活動だと感じると集中が持続できなかったり座位姿勢が崩れたりして、もっている力を十分発揮できないことがある。道具の扱いについては、カッターナイフは力の加減が難しく苦手意識をもっている。また、角と角を合わせるような細かい作業にも苦手意識をもっている。対象児童は事前の自尊感情アンケートにおいては、社会的領域と総合的領域に低さが見られた。自己・他者肯定感テストにおいては、他者否定が若干高い傾向が伺われた。

○ 指導観

指導に当たって、授業の始めに学習の流れ、タイムスケジュールを提示する。おおまかな学習の流れをつかませることで、児童に見通しをもって主体的に活動できるようにする。流れやタイムスケジュールは紙に書いたものを掲示しておき、活動の途中に確認できるようにする。言語による説明だけでは理解しにくいことがあるので、できるだけ具体物を提示しながら説明する。着想では、トレーシングペーパーと色セロハンを渡し、組合せた光の美しさや楽しさを実感させる時間を設定する。構想では、いろいろな材料による効果の違いを比べられるように実物モデルを用意したり、つくりたいものを言語化させたりして、イメージをふくらませやすくする。製作では、つくりながら光に映して色合いを考えながらつくるようにさせる。また、色セロハンを貼る位置や重ね合わせる量を変えることでスクリーンに映る色調が変化する様子を試しながら、自分の気に入った感じを

見付けられるようにさせる。カッターの使い方については、丁寧に指導を行い安全面に配慮していく。製作後は、作品を展示して鑑賞し合い、自分や友だちの作品のよさを味わわせたい。

特別支援学級の児童（以下、対象児童とする。）については、個人の作品を製作する活動が中心になるが、そのプロセスで、友だちと光と影の美しさを共感する、友だちと対話しながらつくりたい作品のイメージをふくらませる、友だちの発想や方法のよさを参考にする、互いの作品を鑑賞し合い対話をするといった友だちとのかかわりを大切にしたい。作品を製作したり鑑賞したりする活動において友だちとかかわる中で、自分の発想の面白さを認められたり自分のつくり方が友だちの製作のヒントになったりすることから自分の表現のよさに気づき、周囲から認められ受け入れられているという感覚を味わわせたい。また、友だちと光の影の美しさを共感したり友だちの表現の工夫に気付いたりすることから友だちを肯定的に認め受け入れる感覚を味わわせたい。対象児童への具体的な支援については、ICFシート（別紙１）に基づいて展開していくこととする。

5 題材の目標

- ・トレーシングペーパーや色セロハンなどを使って、飾るものをつくることを楽しむ。
- ・材料の組合せや友だちの発想を基に試しながら表すことができる。
- ・美しい感じになるように材料の特徴を生かして飾りをつくることができる。
- ・自分や友だちの作品の表し方の共通点や違いを見付けながら、よさに気付くことができる。

6 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①トレーシングペーパーや色セロハンなどがつくる光と影の美しさやおもしろさを生かして、飾るものをつくることを楽しむ。	①紙テープや色セロハンの形や組合せを考えて、試しながら飾りを構想する。 ②友だちの発想を基に新たなアイデアを思い付いている。	①美しい感じになるように材料の特徴を生かして飾りをつくっている。 ②友だちのつくり方を参考にして自分のつくり方を工夫する。	①自分や友だちの表し方の共通点や違いを見付けながら、よさに共感して見る。

7 題材の指導と評価の計画（全４時間）

次 (時数)	学 習 内 容	評価の観点					
		関	発	創	鑑	具体的評価規準	評価方法
一 (2)	○トレーシングペーパーや色セロハンなどでつくりだす光と影の美しさを味わう。 ○色や形、光や影の組合せを楽しみながら発想を広げ、つくり方を考える。 ○光と影の美しさが出るように材料を組合せたり、つくり方を工夫したりする。	○				・材料の組合せから生まれる光との美しさに関心をもつ。 ・光と影の美しさが出るように、材料の組合せを十分に試みている。 ・自分のつくりたいものに合った材料や用具を選び、思いを広げながらつくる。 ・友だちの発想を基に新たなアイデアを思い付いている。 ・自分や友だちの作品のよさに気付く。	観察 観察、発言 観察、作品 観察、作品 観察、よかったねカード、振り返りカード

二 (2)	○光と影の美しさが出るように材料を組合せたり、つくり方を工夫したりする。 ○自分や友だちの作品のよさを見付け合う。			◎ ◎ ○ ○	・自分のつくりたいもの合った材料や用具を選び、思いを広げながらつくる。 ・友だちのつくり方を参考にして自分のつくり方を工夫している。 ・活動のプロセスで、自分の表現や友だちの表現のよさを見付け、表現を深める。 ・自分や友だちの作品のよさを味わう。	観察，作品 観察，作品 観察，発言 観察，振り返りカード，よかったねカード
----------	--	--	--	------------------------------	--	--

8 学習指導過程

(1) 第一次

① 日時 平成21年6月23日（火）第3・4校時

② 本時の目標

- ・色や形，光や影の組合せを楽しみながら発想を広げ，つくり方を考え，製作にとりかかることができる。
- ・自分や友だちの表現のよさに気付くことができる。

③ 準備物

教師：厚紙，空き箱，トレーシングペーパー，片面段ボール，色セロハン，カッターナイフ，カッターマット，作業手順モデル，カッターナイフの使い方モデル図，振り返りカード，よかったねカード，ミニホワイトボード

児童：ものさし，接着剤，カッターナイフ，カッターマット

④ 学習の展開

学 習 活 動	◇指導上の留意点 ◆対象児童への指導の手だて				具体的評価規 準(評価方法)
	T 1	IC F	T 2	IC F	
1 本時のめあてと学習の流れを知る。(5分) いろいろな材料から生まれる光と影の美しさを見付けて窓に飾り飾りをつくりましょう。	◆◇本時のめあてを提示する。 ◆◇今日の学習の流れ，タイムスケジュールを書いたものを掲示する。	活動A 活動B 環境因子D	◆授業開始前に，対象児童に分らないことがあれば質問に来るように言葉をかけておく。 ◆学習の流れ等を確認する。	活動B 活動B	関材料の組合せから生まれる光との美しさに関心をもつ。(観察)
2 つくり方の手順を知る。(5分) いろいろな材料から生まれる光と影の美しさを見付けましょう。	◆◇つくり方の手順について示した図にそって説明する。(①段ボールをカッターナイフで切る。②枠を考えて切り抜く。③枠をプラスチック板に写し取る。④箱にプラスチック板を貼り付ける。⑤段ボール	活動B 環境因子D	◆児童が注目してからモデルを提示する。 ◆作業の手順について分かったか確認する。	心身機能F 活動B 環境因子D	

3 手順にそって製作する。 (30 分)	テープで形をつくる。⑥段ボールテープでつくった形をプラスチックの板に断面接着する。⑦断面接着した形の上に色セロハンをテープで貼る。)	活動C 環境因子D	◆作品の完成は、次の時間であること（今日は仕上げないこと）を確認しておく。	活動B	
	◆◇今日の授業で作業⑥まで取り組むことを伝える。				
	◆◇カッターマット, 30cmものさしを確認し, 段ボールを配る。お道具箱のふたに使う道具を入れさせる。	環境因子A B	◆道具等が準備できているか確認する。	環境因子A B	発 光 と 影 の 美 し さ が 出 る よ う に , 材 料 の 組 合 せ を 十 分 に 試 み て い る 。 (観 察 , 発 言)
	◆◇カッターナイフの使い方について使い方モデル図を示しながら説明する。モデル図はそのまま提示しておく。	活動B 環境因子C D	◆児童が注目してからモデル図を提示する。	心身機能F	
	◆◇できた段ボールテープは各自のお道具箱のふたに入れることを伝える。	環境因子A	◆できた段ボールテープの置き場所を確認する。	環境因子A	
	◆◇無言で安全に留意して作業させる。	環境因子A	◆カッターナイフの使い方を指導したり, 作業効率のよい姿勢を確認したりする。	身体構造A C 環境因子C	
	◆◇作業が終わったら段ボールテープや道具をお道具箱のふたに入れさせる。	活動B 環境因子A			
	◆◇つくりたい枠について発表させ, つくりたいものを言語化してイメージをもちやすくさせる。	活動C	◆対話をしてつくりたい物を言語化させ, イメージをふくらませる。	活動C 身体構造B	創 自 分 の つ くり たい も の に 合 っ た 材 料 や 用 具 を 選 び , 思 い を 広 げ な が ら つ く る 。 (観 察 , 作 品)
	◆◇箱を配り, 枠を描き, 切り抜かせる。(作業②)	環境因子B	◆どんな枠にした いか確認し, 次の活動への意欲と見通しをもたせる。	活動B 心身機能E	
	◆◇作業③, ④についてモデル図を示	活動B 環境因子	◆児童が注目して	心身機能	

	して説明しながら進めさせる。 ◆◇グループで進度がそろうように、ゆっくり目の児童にはグループ内で教え合わせる。 ◆◇作業⑤についてモデルを見ながらつくらせる。 ◆◇材料や表現方法によって発想が広がっていくよう実際に行いながら指導していく。 ◆◇作業⑥について断面積着の方法についてモデルを用いて説明する。 ◆◇友だちの表現を参考にしていたり、思い付いたことを友だちと話したりしている活動を評価し、よかったねカードを記入する時のヒントにさせる。	D 環境因子 E F 活動 E 環境因子 D 環境因子 F 環境因子 D 参加 C D	からモデル図を提示する。 ◆◇グループで進度がそろうように、ゆっくり目の児童にはグループ内で教え合わせる。 ◆どんな段ボールの形をつくりたいか確認し、次の活動への意欲と見通しをもたせる。 ◆断面積着の方法をやってみせる。 ◆姿勢が崩れてきたら声をかけ、自分の正面で作業するよう言葉をかける。 ◆◇友だちの表現を参考にしていたり、思い付いたことを友だちと話したりしている活動を評価し、よかったねカードを記入する時のヒントにさせる。	F 環境因子 E F 身体構造 B 活動 B 心身機能 E 身体構造 D 身体構造 A 参加 C D	発 友だちの発想を基に新たなアイデアを思い付いている。(観察, 作品)
4 作品途中経過報告会を開く。(15 分) できたところまでグループの中で報告し合い、よかったねカードを書きましょう。	◆◇報告し合う時間を設定する。 ◆◇よかったねカードを記入し、グループの中で交換させる。 ◆◇グループのよかったねカードをミニホワイトボードに掲示し、授業後も見ることができるようにする。	活動 B 参加 C D 参加 C D	◆友だちからもらったよかったねカードを一緒に読む。	参加 C D	鑑 自分や友だちの作品のよさに気付く。(観察, よかったねカード, 振り返りカード)
5 授業の感想を書く。(10 分) 今日の学習の振り返りカードを書きましょう。	◆◇チェックすることで簡単に振り返れる振り返りカードに記入させる。 ◆◇片付けを協力してするよう呼びかける。	活動 A 環境因子 D 環境因子 E	◆振り返りカードの記入状況を確認する。 ◆片付ける場所や範囲、ものを限定して片付けるよう言葉をかける。	活動 A 環境因子 D 環境因子 A E	

(2) 第二次

① 日時 平成21年6月30日(火)第3・4校時

② 本時の目標

・光と影の美しさが出るように材料を組合せたり、つくり方を工夫したりしながら飾りを完成することができる。

・自分や友だちの作品のよさを見付け合うことができる。

③ 準備物

教師：厚紙，トレーシングペーパー，片面段ボール，色セロハン，作業手順モデル，よかつたねカード，振り返りカード，ミニホワイトボード

児童：色セロハン，空き箱，接着剤，セロハンテープ

④ 学習の展開

学 習 活 動	◇指導上の留意点 ◆対象児童への指導の手だて				具体の評価規 準(評価方法)
	T 1	IC F	T 2	IC F	
1 本時のめあてと学習の流れを知る。 (5分) つくり方を工夫して、窓に飾る飾りを完成させましょう。	◆◇本時のめあてを提示する。 ◆◇今日の学習の流れ、タイムスケジュール、飾りをつくる手順モデルを提示し作業を確認する。	活動A 活動B 環境因子D	◆授業開始前に、対象児童に分らないことがあれば質問に来るように言葉をかけておく。 ◆学習の流れ等を確認する。 ◆今日の学習で作品を完成させることを確認する。	活動B 活動B 活動B	創自分のつくりたいものに合った材料や用具を選び、思いを広げながらつくっている。(観察, 作品) 創友だちのつくり方を参考にして自分のつくり方を工夫している。(観察, 作品)
2 つくり方を確認する。	◆◇作業手順モデルを見ながら、前時の活動を想起し、今日の作業手順は⑤⑥であることを確認する。	活動B 環境因子D	◆自分の作品と手順を対応させながら説明する。 ◆注目してからモデルを示す。	活動B 環境因子D 心身機能F	
3 前時の続きで、材料を選び、つくり方を工夫してつくる。 (55分) 自分で材料を選んだりつくり方を工夫したりして飾りを完成させましょう。	◆◇形にセロハンを貼り付ける前に、セロハンに光が通った時に美しさや色の重なりを感じさせるために、3分間自由にセロハンを光にかざさせる。 ◆◇作業に必要な道具(セロハン、はさみ、テープ、ボンド)を確認して作業に入らせる。 ◆◇友だちの表現を参考にして表現	活動B 環境因子A 活動CDE	◆セロハンを試している時に対話しながら、次の活動への意欲と見通しをもたせる。 ◆作業に必要な道具を確認して、作業に入らせる。 ◆姿勢が崩れてきたら声をかけ、自分の正面で作業するよう言葉をかける。	活動BC 心身機能E 環境因子A 身体構造A	

	を深められるように，児童の作品を提示して工夫しているところを示す。 ◆◇材料や表現方法によって，発想が広がっていくよう，材料の重ね方や光の当て方など指導していく。 ◆◇作品が完成した児童に作品カードを書かせる。そのとき，作品カード記入モデルを提示する。 ◆◇紙テープや色セロハンの組合せを工夫していたり，友だちの表現を参考にしていたりする活動の評価する。 ◆◇予定時刻で作業を終わらせ，協力して片付けるよう指示を出す。	活動C D E 環境因子 D 参加A 環境因子 D F	◆部品の接着を介助する。 ◆材料を比べたり友だちのつくり方をモデルとして示したりしながら指導する。 ◆作品が完成したら作品カードを書かせる。そのとき，作品カード記入モデルを提示する。 ◆◇紙テープや色セロハンの組合せを工夫していたり，友だちの表現を参考にしていたりする活動の評価する。 ◆片付ける場所や範囲，ものを限定して片付けるよう言葉をかける。 ◆展示した作品のよさについて対話する。 ◆友だちからもらったよかったねカードを一緒に読む。 ◆振り返りカードの記入状況を確認する。	身体構造 D 参加A 環境因子 D F 環境因子 D 参加A 環境因子 D F 環境因子 A E 活動C D 身体構造 B 参加C D 活動A 環境因子 D	鑑活動のプロセスで，自分の表現や友だちの表現のよさを見付け，表現を深める。(観察，発言) 鑑自分や友だちの作品のよさを味わっている。(観察，よかったねカード，振り返りカード)
4 互いの作品のよさを味わう。(20分) それぞれの作品を見合って，友だちの作品のよいところを見付けましょう。	◆◇展示した作品を見た後でよかったねカードを記入させる。 ◆◇よかったねカードをグループ内で交流し合う。	参加D 参加C D			
5 授業の感想を書く。(10分) 今日の学習の振り返りカードを書きましよう。	◆◇チェックすることで簡単に振り返れる振り返りカードに記入させる。	活動A 環境因子 D			

ICFを活用した図画工作科の指導
題材名:光と色のファンタジー(全4時間)

健康状態

アスペルガー症候群

心身機能・身体構造

- A 座位姿勢を保持する。s760
- B 場に応じた声の大きさと話す。b310
- C カッターナイフの扱いに慣れる。(力の調節が難しい) s730
- D 貼り合わせる作業を丁寧にやる。(手指の巧緻性) s730
- E 集中を持続する。b140
- F 注意を向ける。b140

活動

- 〈学習活動〉
- A 本時のめあてを理解して活動している。d163
 - B 作業手順、タイムスケジュールを理解して活動している。d163
 - C 材料から生まれた光と影から発想を広げ、つくりたいものをイメージしている。d163
 - D 自分のつくりたいものに合った材料や用具を選んで活動している。d175
 - E 材料の組合せやつくり方を工夫してつくっている。d175

参加

- 〈友達とのかかわりの中で〉
- A 友だちと光と影の美しさと一緒に感じている。d163
 - B 自分の見つけた光と影の美しさを友だちに紹介している。d330
 - C 友だちの感想から自分の作品のよさに気付いている。d163
 - D 友だちの作品のよさに気づき、認めている。d163

環境因子(物的・人的環境)

- 〈物的環境〉
- A 作業しやすい環境になっている。e130
 - B 活動に必要なものが準備してある。e585
 - C カッターナイフの使い方を理解して安全に使っている。e585
 - D 困った時に必要な支援がある。e585
- 〈人的環境〉
- E グループの友だちと協力して活動している。e320
 - F 困った時に必要な支援がある。e320 e340

個人因子(本人の気持ち)

- A 見通しをもって主体的に活動したい。
- B 友だちと光と影の美しさと一緒に感じたい。
- C 見つけた美しさを友だちに紹介したい。
- D 光と影の美しい作品をつくりたい。
- E 自分のつくり方を友だちに紹介したい。
- F 作品を飾ってほしい。
- G 作品を家族に見てほしい。

各項目の文末のアルファベット及び数字は、ICFの健康状況及び健康関連状況に係るコードの第2レベルまでの分類を示した。

s:身体構造(structureの略) b:心身機能(bodyの略) d:活動と参加(domain(生活領域)の略) e:環境因子(environmentの略)

参考:障害者福祉研究会編(2002):『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版—』中央法規出版